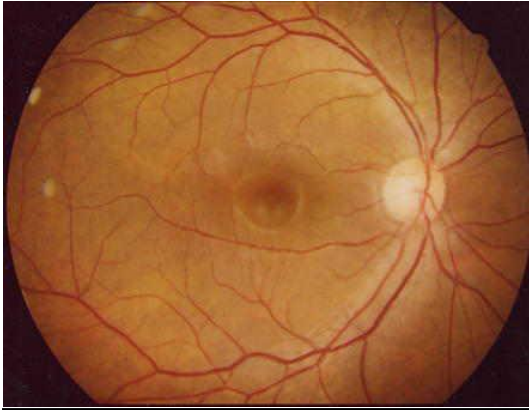


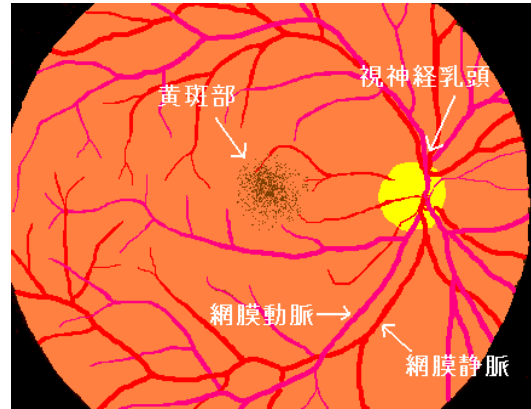
【眼底】

眼底検査とは？

- 眼底検査では、瞳孔の奥にある眼底を眼底カメラを用い、レンズを通して観察し、眼底の血管、網膜、視神経を調べる検査のことです。
- 網膜剥離や眼底出血、緑内障などの網膜疾患、視神経疾患を調べるのに有用です。



眼底は体の中で唯一外から血管の見える部位です。
血管の走行を見ることで、高血圧、高脂血症、糖尿病の血管への影響、動脈硬化の程度などを知ることができます。



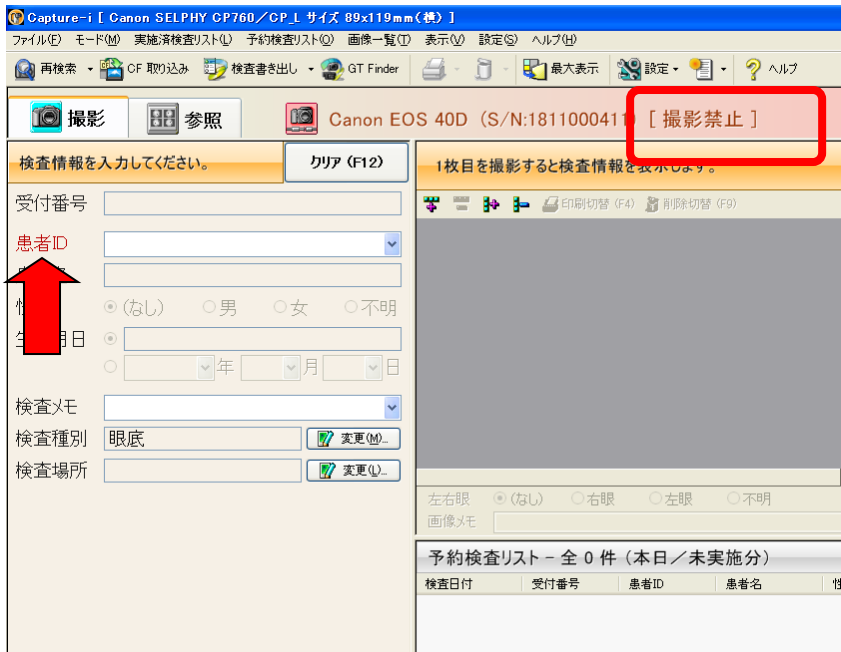
視神経乳頭より動脈と静脈がでてきます。
黄斑部は網膜の中心で、視力に最も関係するところです。
緑内障では視神経乳頭が白くなり、陥没を認めます。

眼底機器の設置

- 垂直な机に機器の設置。本体が重いので机のぐらつきがないか？ロックは掛かるか確認を。
- 本体の下には机が傷つかないように小箱付属のシートを引き、暗幕の下板を設置し、本体を乗せること。
- 本体を乗せた後、暗幕の設置。
- 入力用 PC と眼底本体の接続をしてから PC、本体の電源を入れる。
- 健診開始前に毎回テスト撮影をすること

撮影手順

- 対象が両眼か、片眼のみかをチーフに確認する。
- 原則として、**右目**からの撮影をする。（両眼対象の場合）
- 髪の毛、まつげなどなるべくかからないようにすること。
- ハードコンタクトレンズ着用の場合のみ、はずしていただく。
眼底の写り具合によってはソフトレンズでもはずしていただく。
- 撮影番号をナンバーリングで問診票に打ち、手書きで OCR 用に記入。



- ↑ Capture-I 立ち上げ画面。この時点では撮影禁止（撮影不可）になっている。
- 患者 ID に撮影番号を入力すると【撮影禁止】 が【撮影可能】になり、シャッターが切れるようになります。
- 撮影する。



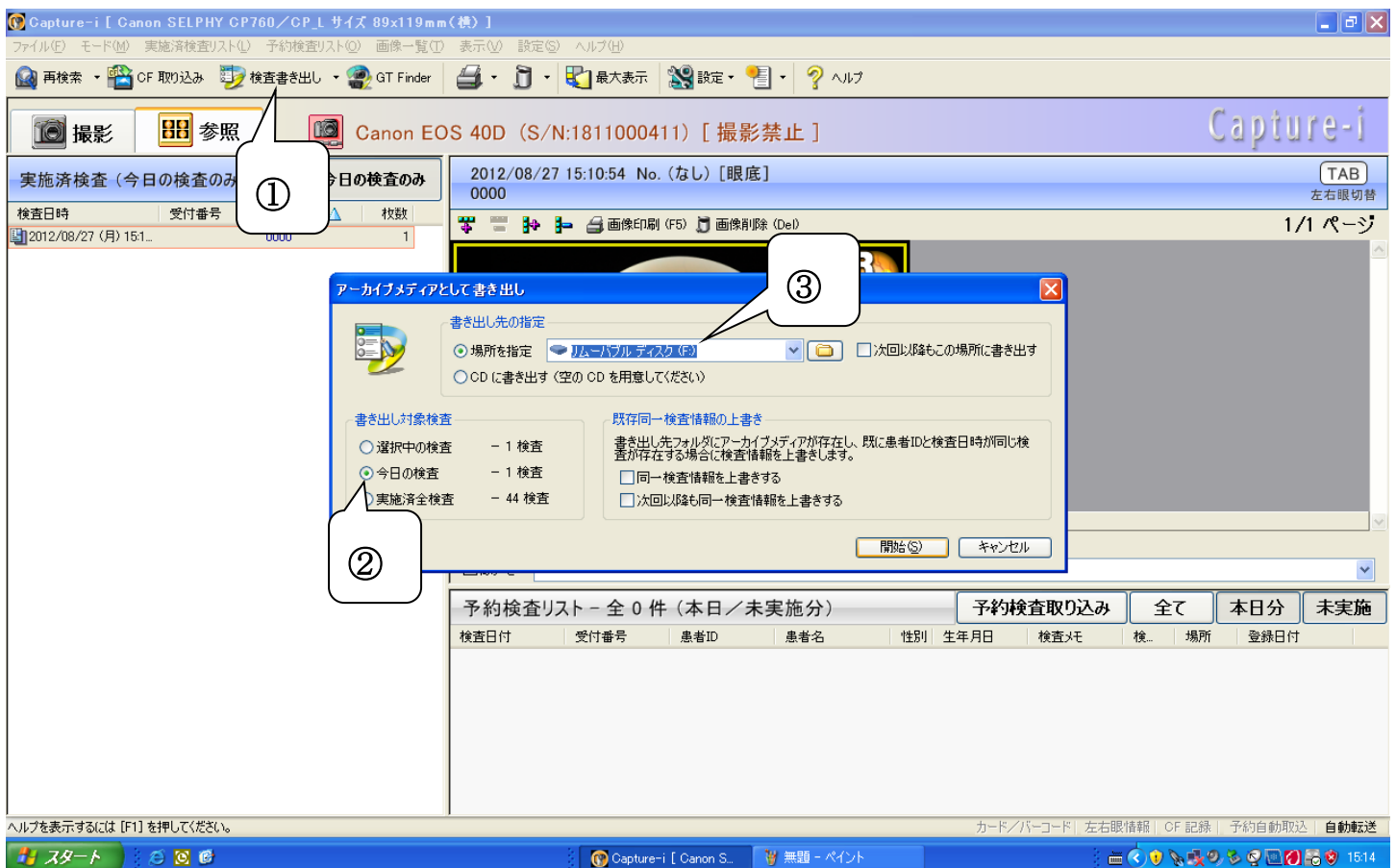
- ※右目撮影画面※ 撮影後、「Tab」キーかマウスで左右眼より撮影眼を入力する。入力すると右上に表示される。
- 同様に左目も撮影し、撮影眼を入力する。
- 撮影が終了したら「F12」キーか撮影終了ボタンをクリックし検査を終了する。
- 右目→左目で撮影する際には左目の瞳孔が十分検査できるくらい開いているかを確認し、判定不能をなるべく避けること。時間を空けるなどで対応をすること。

- 縮瞳の方の場合、暗幕の中で時間をおいたり、受診者の後ろからもう一枚の暗幕でおおう等の対応をする。
しかし、無散瞳検査で限界もあるので受診者に判定不能になる可能性があるという事を説明する。
- 眼底名簿に、裸眼視力、血圧、受診番号、既往歴を記入する。
- 特に受診表の撮影番号は**確実に**記入する。**(数字の記入があいまいだと、データ入力の際にとっても困ります)**
- 受診者からの質問には必要以上に説明・指示をしない。
- あごを乗せる部分、額を当てる部分は一人一人拭くこと！！

病気を断定するようなことは言わず、専門の先生が判定する旨を説明する。

データの保存方法

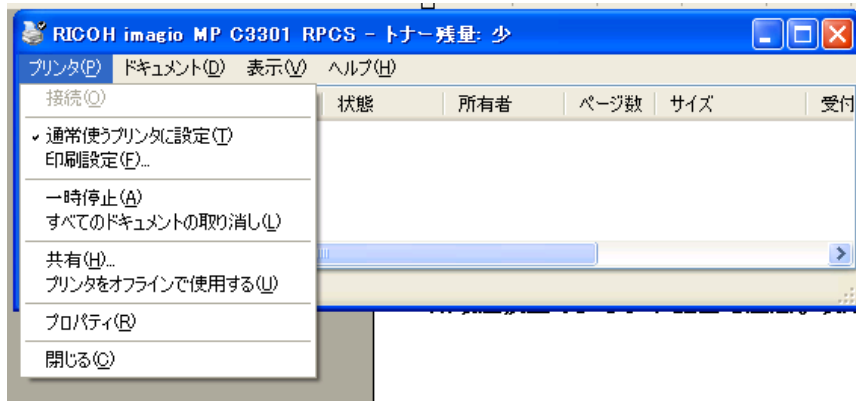
- すべての検査が終了したら、小箱にあるUSBにその日の検査データを入れる。



- USBをPCに差し込む。
- 上図の①「検査書き出し」をクリック。
- 「アーカイブメディアとして書き出し」の画面が出るので②の「今日の検査」にチェックが入っているか確認。検査数と撮影人数が合っているか確認すること。
- ③の場所指定を「リムーバルディスク」に指定する。空白のままの時は▼をクリックしリムーバルディスクを指定する。
- 「開始」をクリックしダウンロード。
- ダウンロードしたUSB、眼底名簿、所見用紙を袋に入れ、チーフに提出してください！

※眼底検査のプリント提出時注意事項※

- 眼底検査のプリントアウトの現場ではプリンタを接続する前に以下の作業をすること！
- ① 「スタート」 → 「設定」 → 「プリンタとFAX」 を開く
 - ② 「レ」 点のついたアイコンをダブルクリック



- ③ 「設定」 → 「プリンタとFAX」 → 「すべてのドキュメントの取り消し」 をクリックし、前の検査情報を削除する。

以上の作業をしないと前回の検査がすべてプリントアウトされ、用紙の無駄に繋がります！

2013年1月24日 改訂